

2020 年度の事業報告書

2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人ゆう・さぼーと

1 事業の成果

当法人が運営する『ヘルパーステーションそらいろ』は 9 年目を迎え、利用される方は 65 名、スタッフ 16 名になり、安定した事業活動を行うことができました。

『相談支援センター空色』は 7 年目で、利用者 3 名、相談員 1 名（兼務）の体制で事業実施しました。目標としていた相談支援員の増員等の職員体制の整備はできませんでした。事業所指定の更新も行い、今後も継続していきます。

2014 年度に開始した公的福祉サービスが利用できない施設入所者の方への『外出支援サービス』については、利用契約者が一人減り 10 名となりました。新型コロナウイルス感染予防の理由で定期的な外出を自粛される方が多く、実績は 1 件のみとなりました。「コロナが収まったら、また出かけた」「ヘルパーに会いたい」という利用者からの声を聞きました。来年度は感染対策をしながら外出支援ができるように入所施設側にも働きかけたいと思います。また、より多くの方にサービスについて知っていただくための地域の入所施設等への啓発活動も継続する予定です。当サービス利用に係る利用料負担軽減のために京都地域創造基金の寄付金募集事業も行い、寄付金募集活動も 7 年目に入り、目標寄付金額に近い額を集めることができました。来年度も事業の継続が決まり、更なる発展を目指したいと思います。

地域の福祉事業所と合同で開催している『そらいろ勉強会』や、地域との交流活動としては、『やまきたヘルパーネットワーク』の活動は新型コロナウイルス感染予防の観点から活動を自粛しました。来年度はリモート開催なども視野に入れ、感染対策と両立させていければと思います。

新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けた年度となりました。行事関係は全て中止にしました。

広報活動は、広報紙『ゆうさぼ通信』やホームページ、ブログ、Facebook ページ等により発信しました。広報紙は 4 回発行し、ホームページ等の更新は随時行いました。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	事業費の金額 (概算)(単位:千円)
障害者自立支援法に基づく障害福祉サービス事業	居宅介護事業、重度訪問介護事業、行動援護事業の実施。	(A)2019年4月1日～2029年3月31日 (B)京都市伏見区、宇治市、城陽市、京田辺市 (C)16名	(D)京都市伏見区、宇治市、城陽市、京田辺市に住む障がい者 (E)17名	16,000
障害者自立支援法に基づく相談支援事業	指定特定相談支援事業、障害児相談支援事業の実施	(A)2019年4月1日～2020年3月31日 (B)京都市伏見区、宇治市、城陽市、京田辺市 (C)1名	(D)城陽市、京田辺市に住む障がい者 (E)3名	3,000
障害者自立支援法に基づく地域生活支援事業	① 移動支援事業の実施。 ② 日中一時支援事業の実施。	(A)2019年4月1日～2020年3月31日 (B)京都市伏見区、宇治市、城陽市、京田辺市 (C)16名	(D)①京都市伏見区、宇治市、城陽市、京田辺市に住む障がい者 ②城陽市に住む障がい者 (E)36名	10,000
障害者の地域生活支援の為の事業	① 施設入所者の方への外出支援サービスを行う ② 青少年野外活動総合センター友愛の丘にてイベント(バーベキュー)を開催。障がいがある方とその家族の交流の場をつくる。	(A) ①2020年6月16日 ②中止	(D) ①城陽市の施設入所者 ②中止	0
福祉、介護に係る教育研修及び情報交流事業	① ヘルパーステーションそらいろ従業者を対象にした勉強会の実施。 ② 地域の居宅介護事業と合同で行う勉強会の実施。	(A) ①中止 ②中止	(D)ヘルパーステーションそらいろの従業者 (E) ①中止 ②中止	0
ホームヘルパー養成研修に関する業務	準備中。	(A)なし (B)なし (C)0名	(D)なし (E)0名	0

(備考)

- 2は、(1)には特定非営利活動に係る事業、(2)にはその他の事業について区分を明らかにして記載する。
- 2(2)には、定款上「その他の事業」に関する事項を定めているものの、当該事業年度にその他の事業を実施しなかった場合、「実施しなかった」と記載する。